

助成活動実績報告書

企画名	アユモドキ教本作成プロジェクト
団体名	アユモドキ里親会

【目的】

岡山市教育委員会文化財課が市内の二つの小学校で実施しているアユモドキの人工繁殖事業の中で現場のスタッフだけが持ち得る情報と地域の文化、環境、ここに特異的に生息している魚類の情報を盛り込んだ教本作成して地域の子どもたちに伝える道具のひとつとする。

毎年、新たに人工繁殖に取り組む5年生の子ども達の「アユモドキとはどういう生き物か」「なぜ、アユモドキを保全するのか」「アユモドキの保全とはどういうことか」などの好奇心に答えることができる資料不足がひとつの課題であった。学校行事の合間に人工繁殖のスタッフから伝えることができる内容は限られている。そこで、今回、この教本作成し、教室、図書室、公民館などの地元を中心とした公共施設に配布することにした。

また、エネルギーコストの観点から人工繁殖と残された自然環境の保全を比較するためにまず、小学校の光熱費を調べた。

この活動によって達成された成果

「アユモドキ人工繁殖」の事業の広義の目的にアユモドキの増殖に留まらず、将来的な放流先の確保／創出と地域での共存方法の検討も含まれていることが忘れられがちなために、ともすると水産物の養殖と混同されることがある。これは保全の観点からは、当該事業の非常に危険な影響ともいえる。それにも関わらず、現状では岡山市の予算には、毎年、狭義の事業を行う部分しか用意されていない。

本活動によって、6年前の事業開始以前、そしてそれ以降に蓄積した研究、保全活動や人工繁殖事業の現場スタッフの経験、地域交流と文化を整理することができ、教本は関心をもってもらえる作品に仕上がった。予算の都合上、手弁当部分も多く、限られたページ数と装丁ながら「本邦初のアユモドキの教科書」は、質が高いものになった。

一方、本年、追加に行った飼育に関わるコスト調査は、事務処理の都合上、詳細に追う事はむずかしかった。しかし、例えば事業取り組み期間の電力量および水道使用量の増加をはるかに上回って、夏期休業中の7月、8月の電力使用量の極端な増加は、職員室の冷房のためと推察できるのに比して人工繁殖事業による増減はみられていない。

今後の計画・展望について

完成品の増刷、改訂、ここに盛り込むことができなかつた情報を加えた「地域の水辺の教科書づくり」活動への発展。